

栗高の煉瓦の門 赤 門

昭和49年の校舎改築記念誌より

栗山実科高女となり二階建て正面校舎の落成した昭和5年、当時の保護者会長、先代小林米三郎氏、同チノ氏御夫妻によって寄贈されたものである。以来、40有余年「栗高の煉瓦の門」とか「赤門」と生徒、卒業生は勿論、全町の方々に親しまれてきた。本年、この記念として現・小林米三郎氏によって新校舎地に移設され、伝統と記念の校門、また、「栗高魂のルネッサンス」としての意義を深めている。



現在の校舎の赤門（平成15年～）



実科高等女学校時の赤門（昭和4年～23年）



栗山高校初代校舎の赤門（昭和23年～48年）

旧校舎 赤門



栗山高校二代目校舎の赤門（昭和48年～平成15年）

新校舎 赤門
(小林米三郎氏のご好意により現校地に移設)

栗山町には、小林酒造という有名な酒蔵があります。そこの二代目小林米三郎氏より寄贈されたものであることが分かりました。昭和5年のこと。以来栗山高校の歴史とともに、栗高生をずっと見守ってきた赤門は栗山高校の象徴でもあると言えます。

現在の校舎はまだ12年目を迎えたまだ新しい建物です。この80年間四代にわたる校舎の前に鎮座する赤門が栗山高校の歴史を一手に引き継いでいる様に感じられます。

文責 北海道栗山高等学校校長